



2019年2月21日

各位

会社名 新日本電工株式会社
 代表者名 代表取締役社長 白須 達朗
 (コード番号:5563 東証第1部)
 問合せ先 執行役員総務部長 上 直
 (電話 03-6860-6800)

(追加)「2018年12月期 決算説明資料」の一部追加について

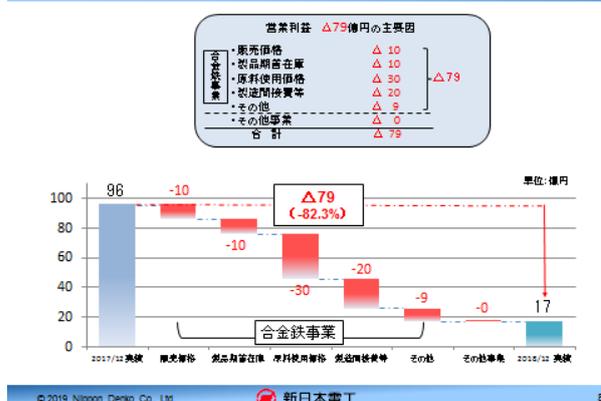
2019年2月8日付で公表いたしました「2018年12月期 決算説明資料」につきまして、資料の追加をいたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

追加の内容

8ページ(1-6. 2018年12月期 連結営業損益分析)を追加し、以降のページを順次繰り下げます。

1-6. 2018年12月期 連結営業損益分析



以上

2018年12月期（第119期）

決算説明資料



新日本電工株式会社

2019年 2月 8日

問合せ先 総務部長 上 直
電 話 03-6860-6800

<http://www.nippondenko.co.jp>

1. 2018年12月期 連結決算
2. 2019年12月期 連結業績見通し
3. セグメント情報
4. 中期経営計画(2018-2020)の進捗状況

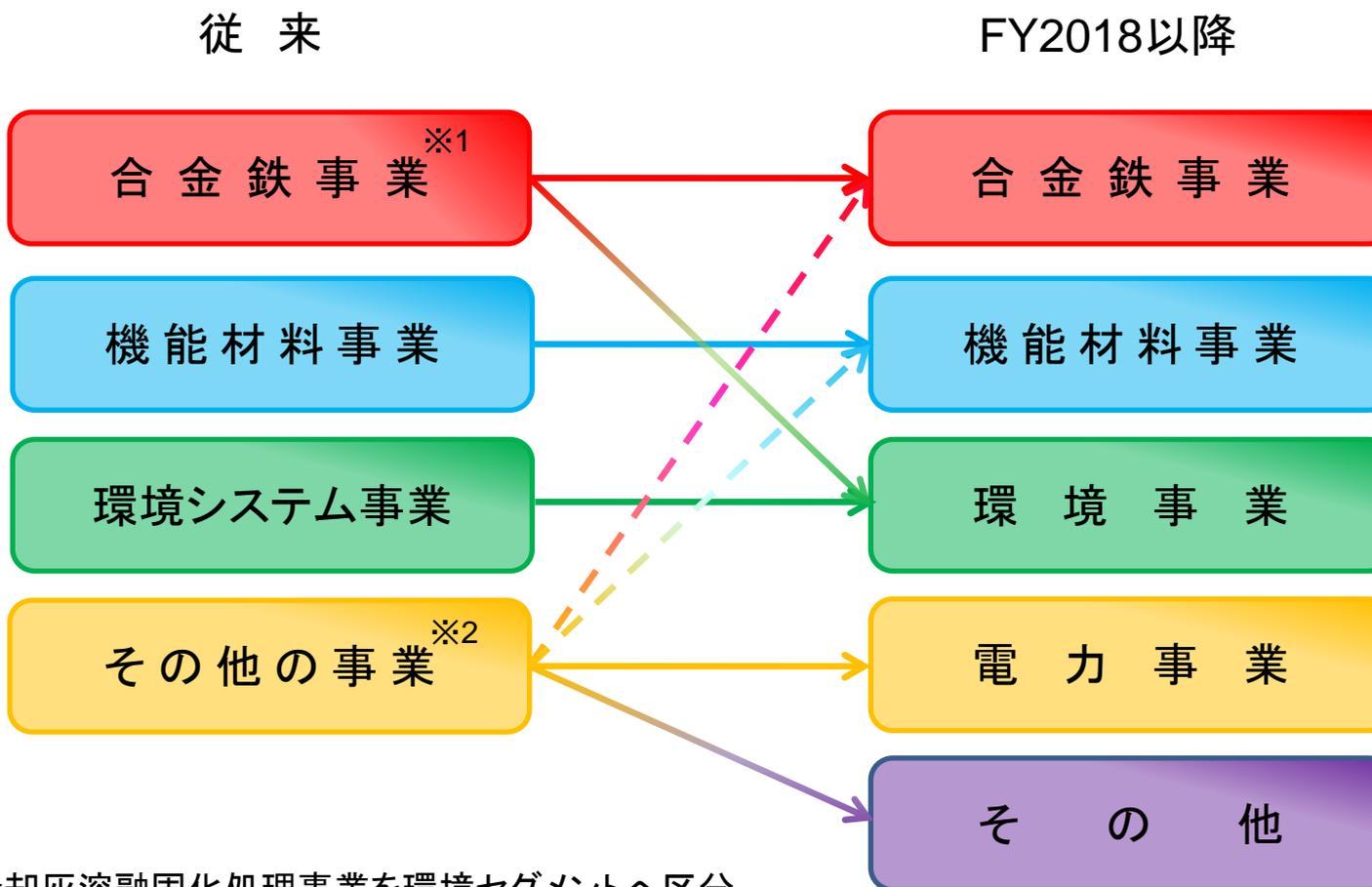
本資料に記載している業績見通し等に関する記述は、現時点で得られた情報に基づき作成されたものであり、様々な不確定要素を含んでおりますので、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

1. 2018年12月期 連結決算

2018年12月期 連結決算

1-1. 事業セグメント

今期よりセグメント区分を再編



※1. 焼却灰溶融固化処理事業を環境セグメントへ区分

※2. 関連事業を各セグメントへ区分

1-2. 2018年トピックス

 増益要因

 減益要因

中央電気工業と完全統合(1月1日)

1. 合金鉄: 高炭素フェロマンガンの需要は堅調
製品市況低迷、原料・在庫価格上昇 
2. 機能材料: 新素材・電池材料共に好調 
3. 環境: 環境システム設備の売上拡大
焼却灰収集量対予想比減 
4. 電力: 第2発電所の順調な稼働 

1-3. 2018年12月期 連結業績

Mn鉱石価格上昇・合金鉄販売価格下落などにより減益

単位: 億円

	17/12期 実績	18/12期 予想値 11月6日発表	18/12期 実績	前期比		予想比	
				増減値	増減率	増減値	増減率
売上高	713	740	739	+26	+3.6%	-1	-0.1%
営業利益	96	18	17	-79	-82.3%	-1	-5.6%
(営業利益率)	(13.5%)	(2.4%)	(2.3%)	(-11.2)	-	(-0.1)	-
経常利益	92	22	19	-73	-79.3%	-3	-13.6%
親会社帰属 当期純損益	80	27	24	-56	-70.0%	-3	-11.1%
1株利益(円)	54.6	18.4	16.1	-38.5	-70.5%	-2.3	-12.5%
為替 (¥ / U S \$)	112.2	112.2	110.4	-1.8	-	-1.8	-

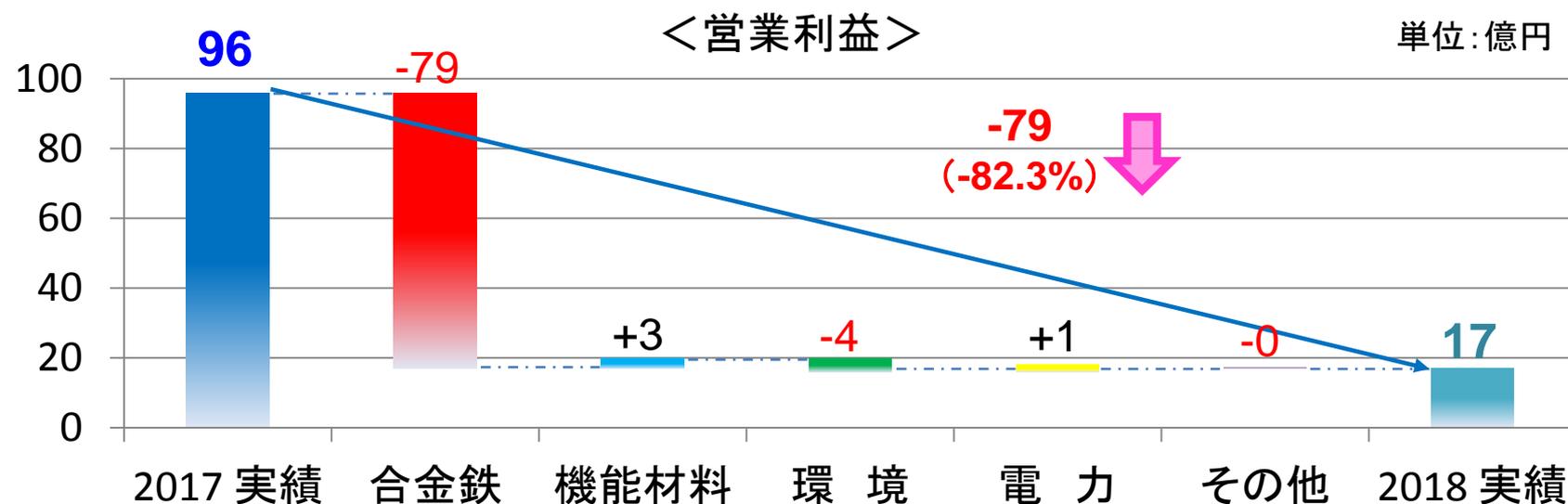
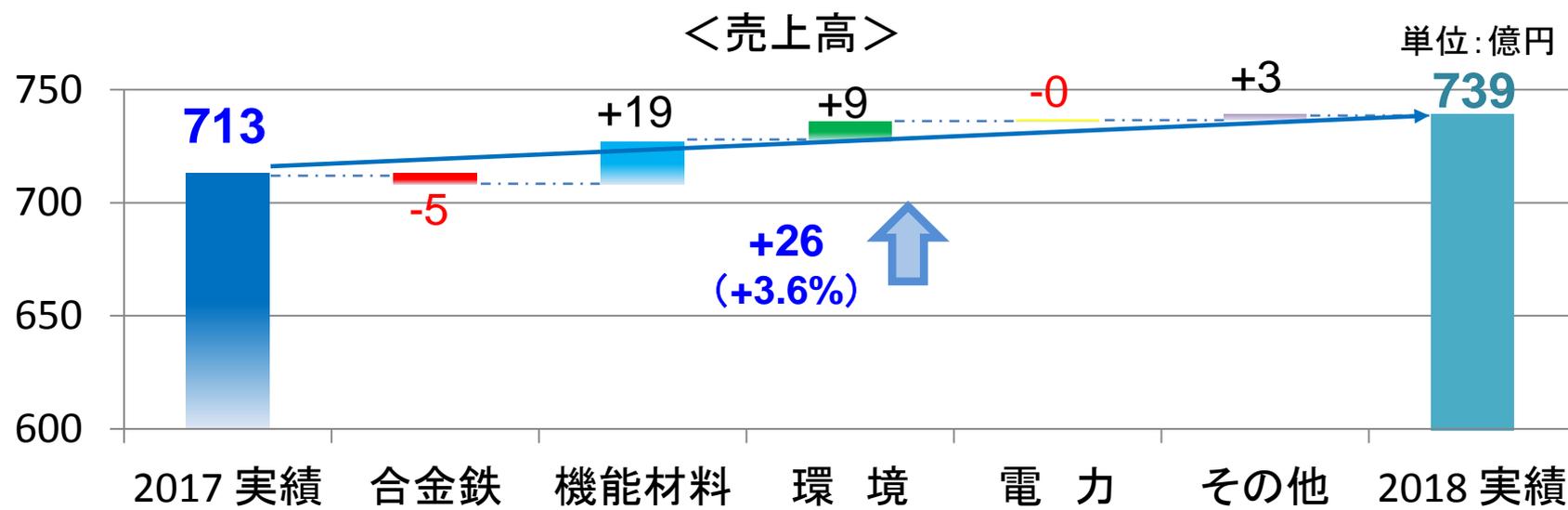
1-4. 2018年12月期 連結業績(セグメント別)

合金鉄事業の業績が連結業績に大きく影響

単位: 億円

区 分	2017年12月期		2018年12月期		前 期 比			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	増 減 値		増 減 率	
					売上高	営業利益	売上高	営業利益
合 金 鉄	484	67	479	-12	-5	-79	-1.0%	-
機 能 材 料	101	12	120	15	+19	+3	+18.8%	+25.0%
環 境	51	14	60	10	+9	-4	+17.6%	-28.6%
電 力	6	-0	6	1	-0	+1	-9.6%	-
そ の 他	71	3	74	3	+3	-0	+4.2%	-6.3%
合 計	713	96	739	17	+26	-79	+3.6%	-82.3%

1-5. セグメント別売上・利益増減

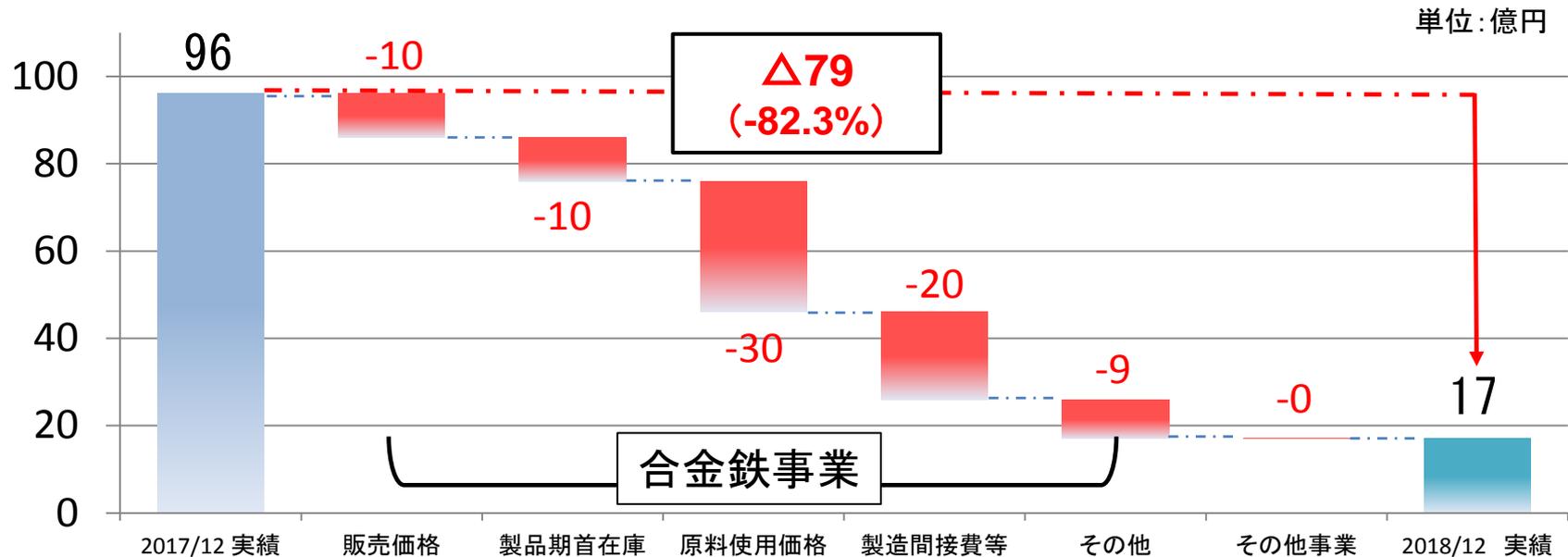


1-6. 2018年12月期 連結営業損益分析

営業利益 $\Delta 79$ 億円の主要因

合金鉄事業	・販売価格	$\Delta 10$	} $\Delta 79$
	・製品期首在庫	$\Delta 10$	
	・原料使用価格	$\Delta 30$	
	・製造間接費等	$\Delta 20$	
	・その他	$\Delta 9$	

	・その他事業	$\Delta 0$	
合計		$\Delta 79$	



1-7. 利益還元

1. 期末配当予定

1株につき**2円**(2月8日開示数値)

2. 年間配当予定

1株につき**5円**(中間配当**3円**:配当性向**31%**)

-配当政策-

各期の連結業績に応じた利益の配分(連結配当性向年間**30%**程度を目途)を基本とし、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保の確保を図りつつ、業績の動向などを総合的に考慮し決定する

2. 2019年12月期 連結業績見通し

2019年12月期 連結業績見通し

2-1. 2019年事業環境

上期は前年下期と同様に厳しい状況
下期に向けて状況は好転



1. 合金鉄: 販売数量・販売価格共に上昇
製造コスト高要因の落ち着き
2. 機能材料: 電池材料の伸びに期待
3. 環 境: 焼却灰収集量前年比増加
4. 電 力: 第3発電所の立上げ
2つの発電所フル稼働



中期経営計画の着実な遂行

2-2. 2019年12月期 連結業績見通し

合金鉄販売数量・販売価格共に上昇、焼却灰処理量増加
第3発電所運転開始などにより増収増益

単位：億円

	2018年12月期		2019年12月期	
	通期実績	通期予想	前期比	
			増減値	増減率
売上高	739	802	+63	+8.5%
営業利益 [※]	17	35	+18	+105.9%
営業利益率	(2.3%)	(4.4%)	(+2.1)	-
経常利益	19	34	+15	+78.9%
親会社帰属 当期純利益	24	24	+0	+2.1%
1株利益(円)	16.1	16.4	+0.3	+1.9%
為替 (¥ / US\$)	110.4	110.0	-0.4	-

※為替感応度：±1円 / ドル ±2.6億円

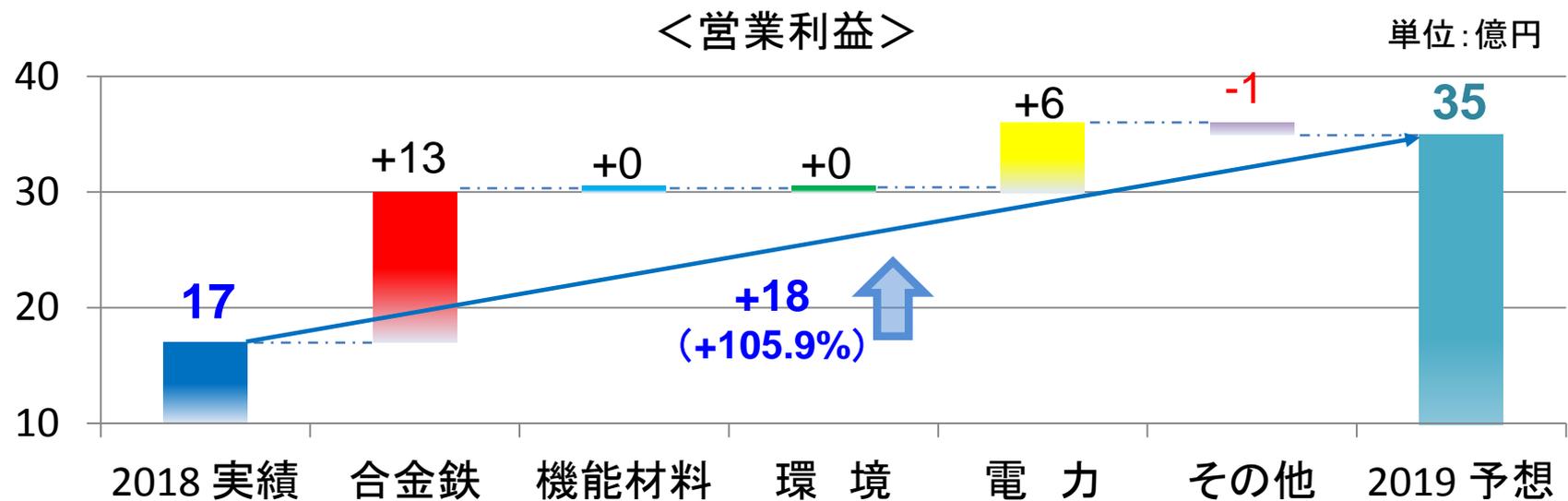
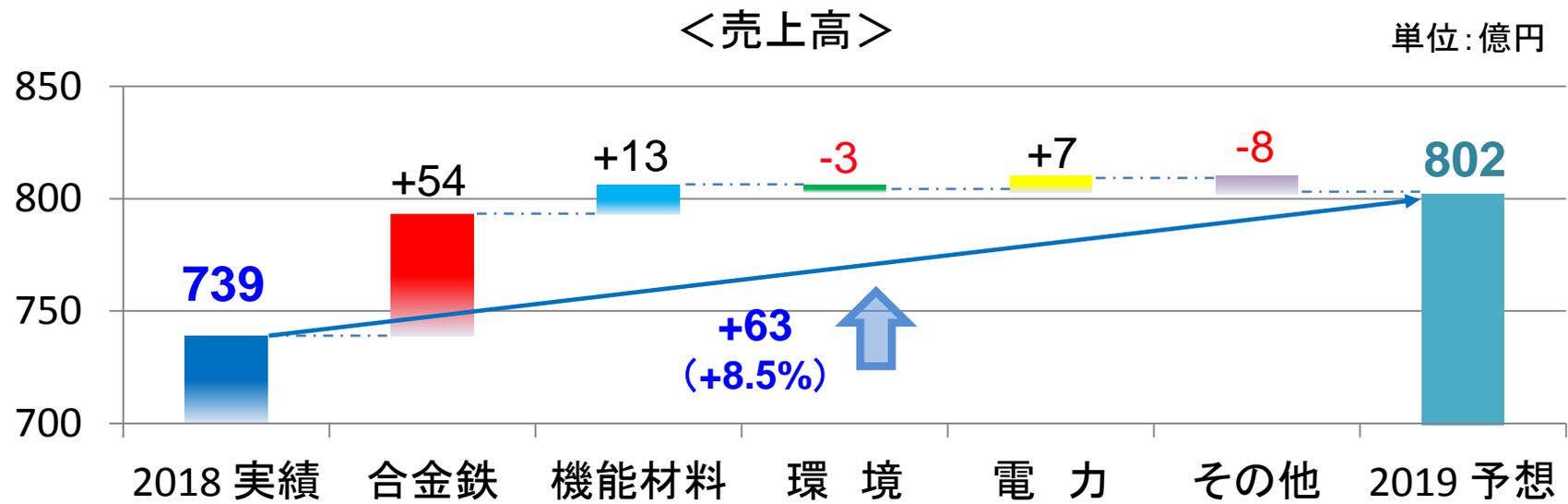
2-3. 2019年12月期 連結業績見通し(セグメント別)

合金鉄事業の業績回復が連結業績に影響

単位: 億円

区 分	2018/12 実績		2019/12 予想		前 期 比			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	増 減 値		増 減 率	
					売上高	営業利益	売上高	営業利益
合 金 鉄	479	-12	533	1	+54	+13	+11.3%	-
機 能 材 料	120	15	133	15	+13	+0	+10.8%	+2.6%
環 境	60	10	57	10	-3	+0	-6.7%	+8.1%
電 力	6	1	13	7	+7	+6	+116.7%	+600.0%
そ の 他	74	3	66	2	-8	-1	-10.8%	-33.3%
合 計	739	17	802	35	+63	+18	+8.5%	+105.9%

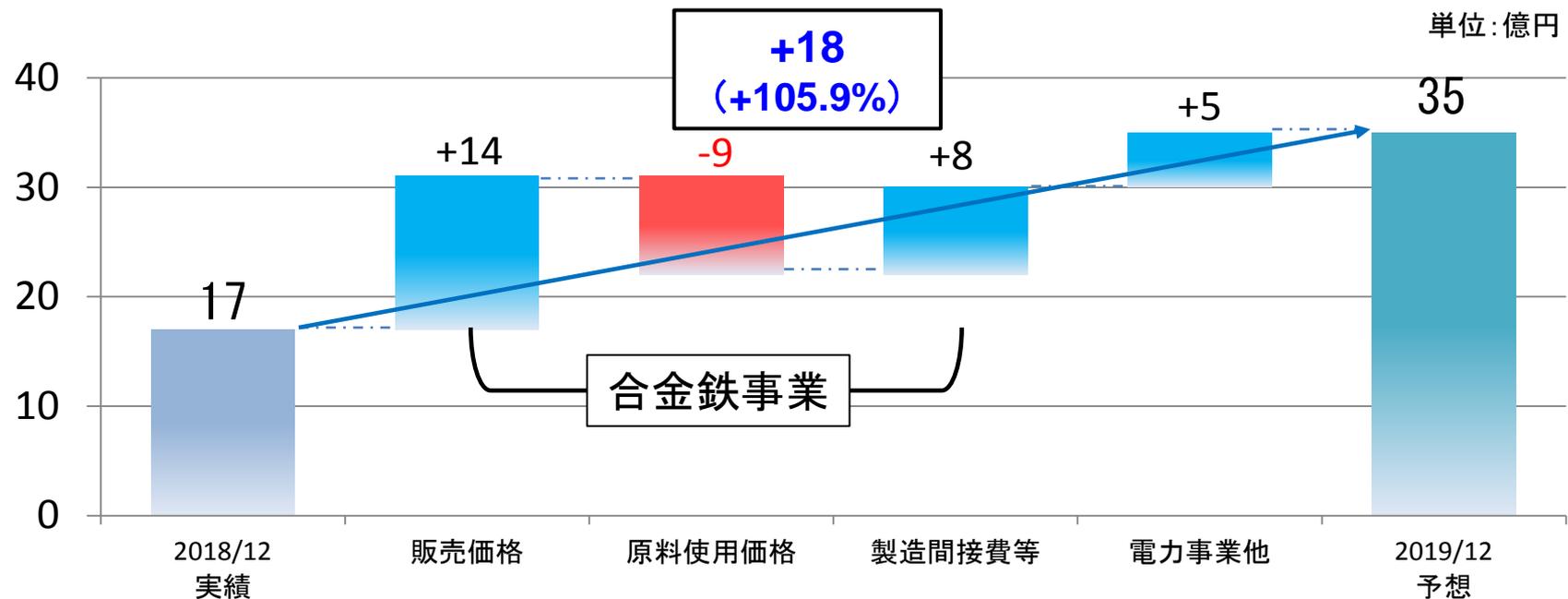
2-4. セグメント別売上・利益増減見通し



2-5. 2019年12月期 連結営業損益分析

営業利益 +18億円の主要因

合金鉄事業	・販売価格	+ 14	} +13
	・原料使用価格	△ 9	
	・製造間接費等	+ 8	
・電力事業他		+ 5	
合計		+ 18	



2-6. 2019年12月期 -設備投資・財務計画

設備投資計画

- 老朽更新、環境安全対策の着実な実施
- リチウムイオン電池正極材料製造設備改造等の戦略投資

単位:億円

	2018年	2019年
税金等調整前当期純利益	32	28
減価償却費	17	23
その他資産の増減額	△27	△8
法人税・事業税等	△10	△4
営業活動によるキャッシュフロー	11	40

財務計画

- 営業活動によるキャッシュフロー
+40億円
- 投資活動によるキャッシュフロー
△80億円
- 財務活動によるキャッシュフロー
+31億円
- 有利子負債残高
138億円

設備投資	△89	△75
その他	34	△5
投資活動によるキャッシュフロー	△54	△80

財務活動によるキャッシュフロー	40	31
------------------------	-----------	-----------

現金及び現金同等物	83	74
	(前年比)	△9)

有利子負債残高	104	138
	(前年比)	+34)

3. セグメント情報

セグメント情報

3-1. 合金鉄事業

粗鋼生産

■ 国内粗鋼生産量

- 2017年: 1億 466万トン
 - 2018年: 1億 433万トン
- (対前年0.3%減)

■ 世界粗鋼生産量

- 2017年: 17億2,900万トン
 - 2018年: 18億 860万トン
 - 2019年
- (対前年4.6%増)

中国: 国内景気減退感や米国との貿易摩擦から先行きに不透明感

インド: 2018年日本の生産量を超え世界第2位の生産国へ。今後も堅調な生産が見込まれる

高炭素フェロマンガン生産

■ 世界高炭素フェロマンガン生産量

- 2017年: 406万トン
 - 2018年見込: 405万トン
 - 2019年
- (対前年0.2%減)

2017年の増産により昨年は需給が緩んだが、年後半からの大手生産者の減産等によりタイト化を想定

3-1. 合金鉄事業

2019年展望

■ 2019年事業環境

1. 高炭素フェロマンガ需要 好調を維持

・鉄鋼各社の粗鋼生産好調により需要も堅調に推移することを見込む



2. 原料価格の高止まり

・原料鉱石価格は高止まっているが、今後適正価格に落ち着くと想定



3. 高炭素フェロマンガ市況回復による販売価格上昇

・昨年は市況下落も、需給がタイトになると想定されるため市況は上昇すると想定



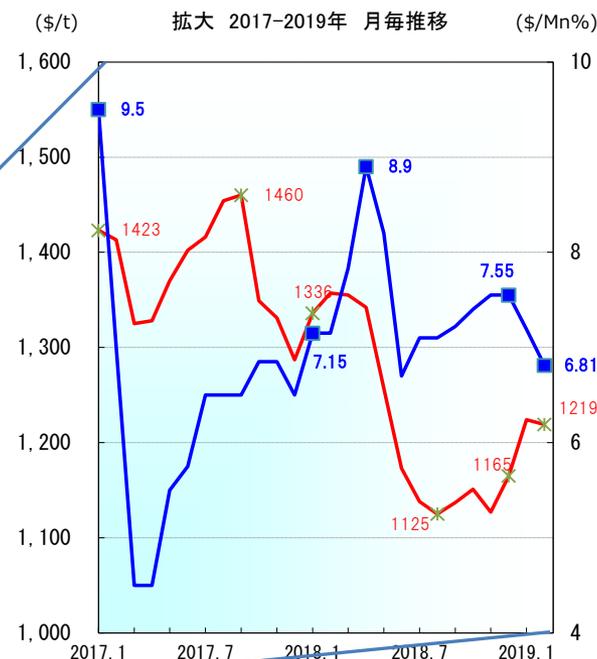
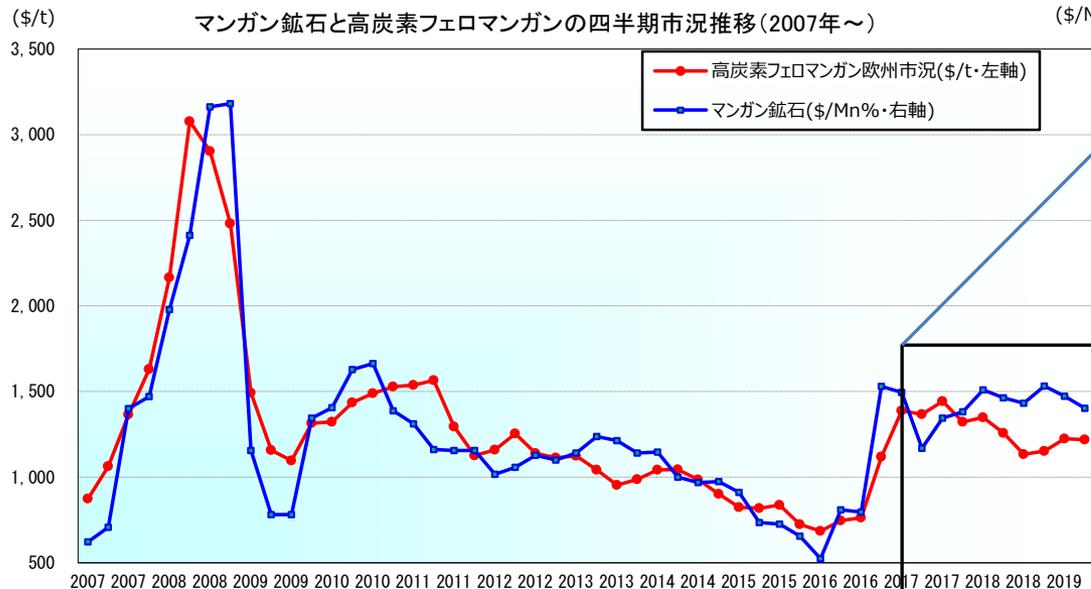
■ 2019年見通し

単位: 億円

	2018/12	2019/12	前 期 比	
			増 減 値	増 減 率
売 上 高	479	533	+54	+11%
営 業 利 益	-12	1	+13	-

3-1. 合金鉄事業

合金鉄市況動向



・高炭素フェロマンガン価格

2017年1月⇒\$1,423/t
 2018年1月⇒\$1,336/t (前年同月比約6%減)
 2018年12月⇒\$1,165/t (2018年1月比約13%減)
 2019年直近⇒\$1,219/t

・マンガン鉱石価格

2017年1月⇒\$9.50/DMTU
 2018年1月⇒\$7.15/DMTU (前年同月比約25%減)
 2018年12月⇒\$7.55/DMTU (2018年1月比約6%増)
 2019年直近⇒\$6.81/DMTU

【参考】通期市況感応度(為替110円/\$)

製品価格(売上高ベース)

(億円)

-\$200/t	-\$100/t	+\$100/t	+\$200/t
× 58	× 29	○ 29	○ 58

マンガン鉱石価格(コスト)

(億円)

-\$2.0/DMTU	-\$1.0/DMTU	+\$1.0/DMTU	+\$2.0/DMTU
○ 56	○ 28	× 28	× 56

3-1. 合金鉄事業

海外プロジェクト

■ パータマフェロアロイズ社〈当社25%出資〉(マレーシア)

- ・シリコマンガン、フェロシリコン計6基の電気炉での安定操業中 ⇒ 一部設備の改善による生産性の向上に取組中
- ・自社焼結設備、2017年10月稼働後、安定操業中
- ・中低炭素フェロマンガン2基は設備改善を検討中、稼働は2019年末に順延予定

今後、プロジェクトとしての最適操業の早期実現を目指す

FMnMLの原料である
SiMn 約40千Tを外販中

〈生産予定数量〉

生産品種	数量(MT/年)	電気炉数
シリコマンガン(SiMn)	120,000	33MVA × 3基
中低炭素フェロマンガン(FMnML)	54,000	5MVA × 2基
フェロシリコン(FeSi)	60,000	33MVA × 3基
焼結鉱(原料用)	200,000	



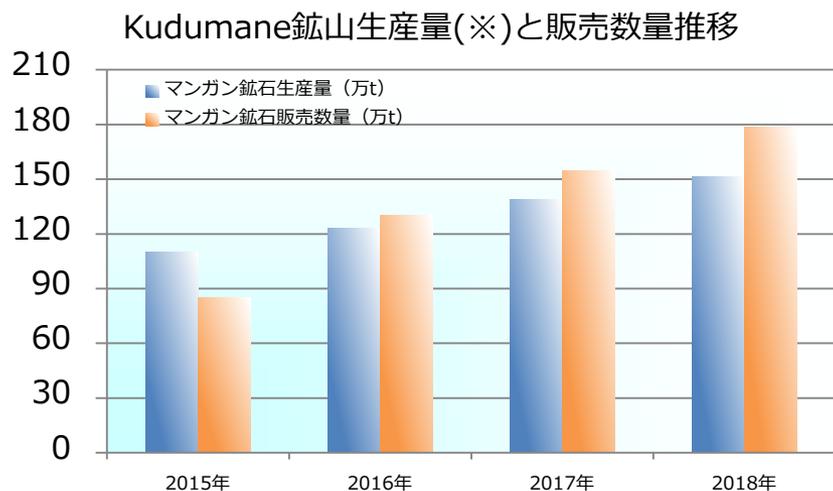
順調な生産・販売体制の実現により
当社収益への寄与を期待

3-1. 合金鉄事業

マンガン鉱山投資

- ・2013年6月、南アフリカのマンガン鉱山(Kudumane鉱山) 権益を取得し、採掘を開始。
- ・2013年8月以降本格的な船積みを中心として中国向けに開始。
- ・本年も当社で受け入れを実施。
- ・2016年11月、新規鉱区の採掘権取得。2018年11月に商業生産を開始。
- ・合金鉄市況、鉱石価格の変動に対し、Mnビジネス全体として収益バランスを図る。

2017年より、
当社収益に寄与



(※)生産量には低品位グレード品は含まない

⇒2017年は生産・販売ともに堅調に推移。
2018年も前年比で生産量、販売量共に増加。

Mn鉱石・高炭素フェロマンガ入市況月毎推移



⇒Mn鉱石の市況は2018年4月の\$8.90をピークに
下落した。7月以降は上昇基調となったが、年明
けからは再び調整局面となり下落。

3-2. 機能材料事業

2019年展望

■ 2019年 年間事業環境と取り組み

1. 事業環境

- ・環境規制などにより、世界的に環境車の需要増。
⇒ 電動化の加速。
- ・自動車の安全機能の標準化(自動運転・車線逸脱警報等)に伴う電子部品の搭載数量増。
⇒ 電装化の拡大。

当社自動車関連部材の需要旺盛

2. 取り組み

- 1) 電動化・電装化需要への着実な取り込み
- 2) 新体制の下、経営環境の変化に迅速対応

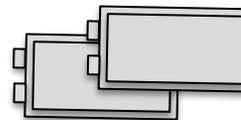
■ 2019年 年間見通し

	2018/12	2019/12	前 期 比	
			増 減 値	増 減 率
売 上 高	120	133	+13	+11%
営業利益	15	15	+0	+3%

単位: 億円

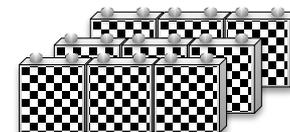
● 当社の自動車関連製品

リチウムイオン電池正極材料



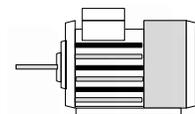
水素吸蔵合金

ニッケル水素電池負極材料



フェロボロン

モーター



ジルコニア、マンガン化成品

センサー、排ガス用触媒



3-3. 環境事業

【環境システム事業】

■ 事業環境

- 自動車部品関連の表面処理は堅調。
- 水素エネルギー関連の純水製造装置は、エネファーム向けは堅調に推移。水素ステーション及び産業用水素製造装置向けも着実に増加。

■ 2019年取り組み

- 自動車部品関連の需要掘り起こしと水素関連に注力。
- 東南アジアなど成長が期待される海外での事業展開を推進。
- 大型設備案件(ほう素回収設備等)の新規成約に向けた営業活動。



【電気炉による焼却灰溶融固化処理事業】

■ 事業の特色

- 高温での溶融固化処理により、ダイオキシンの分解、重金属の無害化・安定化を実現
 - 循環型社会のニーズへの貢献：
 - ・ 溶融スラグ(商標登録: エコラロック)は路盤材他広範囲用途に販売
 - ・ 溶融メタルからは有価金属(金・銀・銅他)を回収[都市鉱山]
- パーフェクトリサイクルの達成

3-3. 環境事業

■ 事業環境

- 専用炉3炉による処理能力「トータル10万トン/年超」を確立
- 排出事業者の資源リサイクルのニーズに応えるべく、営業活動を展開

■ 2019年取り組み

- 当社の事業の特徴であるパーフェクトリサイクルを強みとした営業活動を継続
- 埋立て処分場確保が困難等、問題を抱える排出事業者へのアプローチ
- 新規事業分野へのアプローチ



■ 2019年見通し

単位: 億円

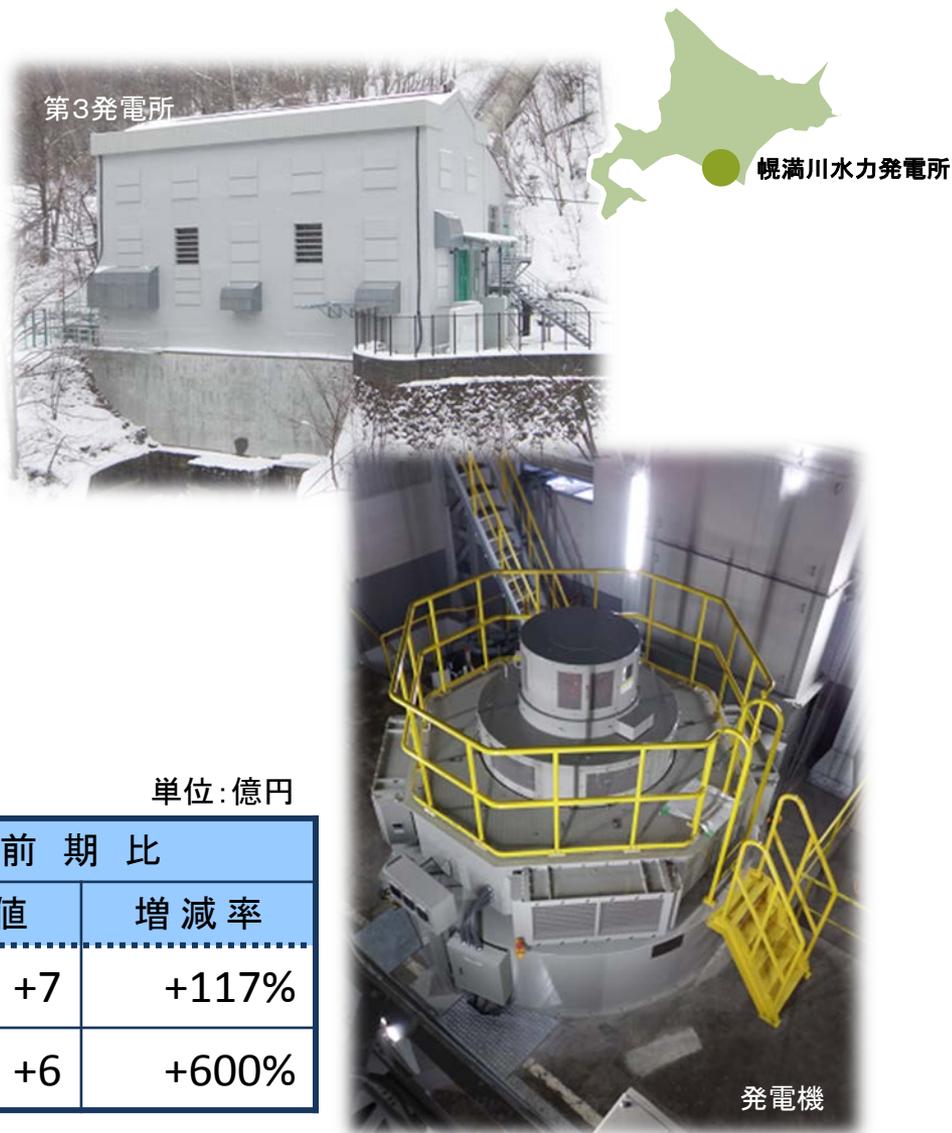
	2018/12	2019/12	前 期 比	
			増 減 値	増 減 率
売 上 高	60	57	-3	-7%
営 業 利 益	10	10	+0	+8%

3-4. 電力事業

■ FIT制度を活用した水力発電事業

- 売電に特化した事業転換
- 第2発電所は順調に稼働中
第3発電所は2月から営業運転開始
- フル発電体制が整い、今後の収益に貢献
- 安定操業の継続

第2発電所	4,406kW	稼働中(2017年11月～)
第3発電所	6,221kW	2019年2月稼働開始

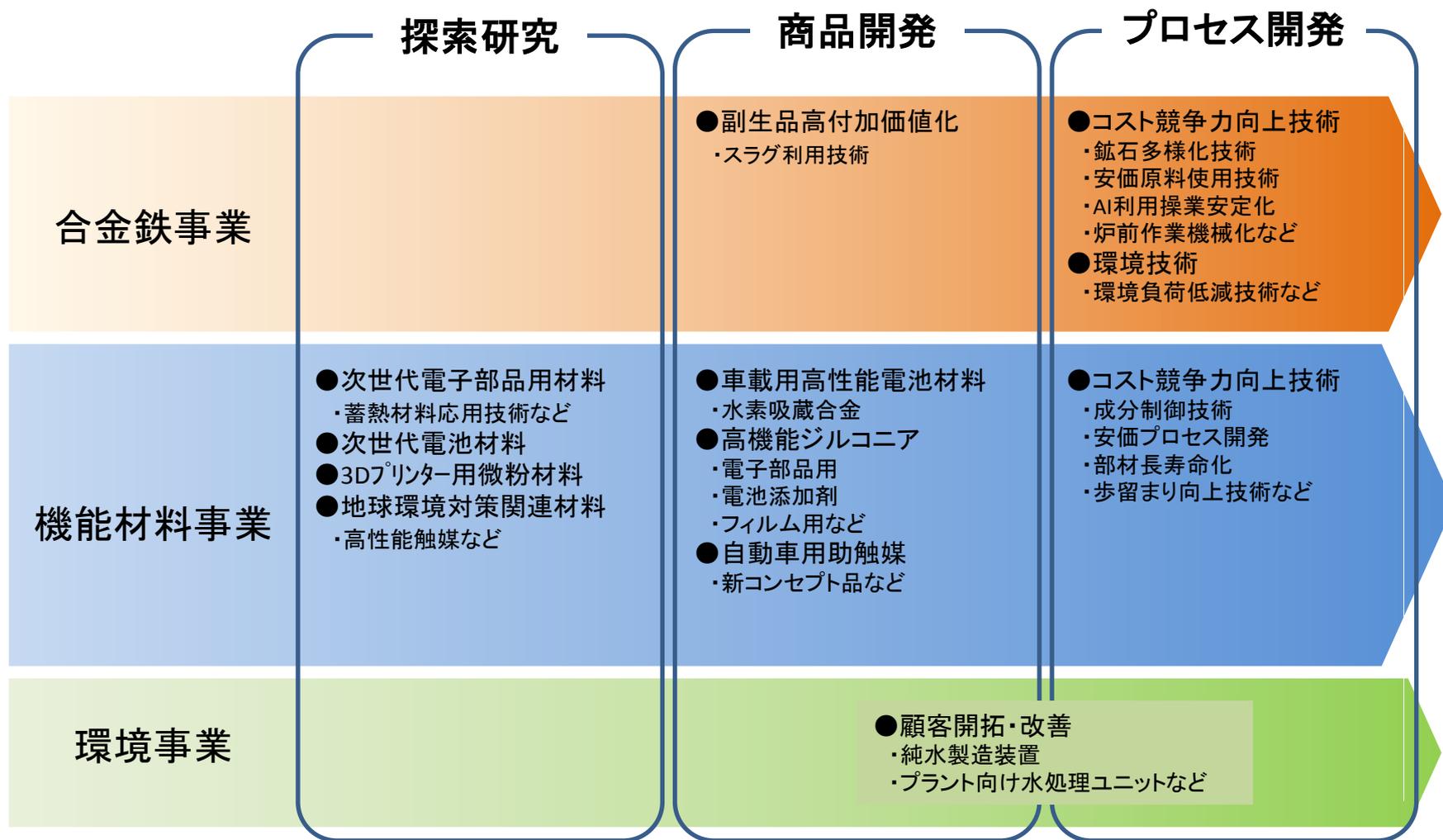


単位: 億円

	2018/12	2019/12	前 期 比	
			増 減 値	増 減 率
売 上 高	6	13	+7	+117%
営 業 利 益	1	7	+6	+600%

3-5. 研究開発状況

「探索研究」、「商品開発」、「プロセス開発」のフェーズに分け、セグメントの事業戦略に即し推進

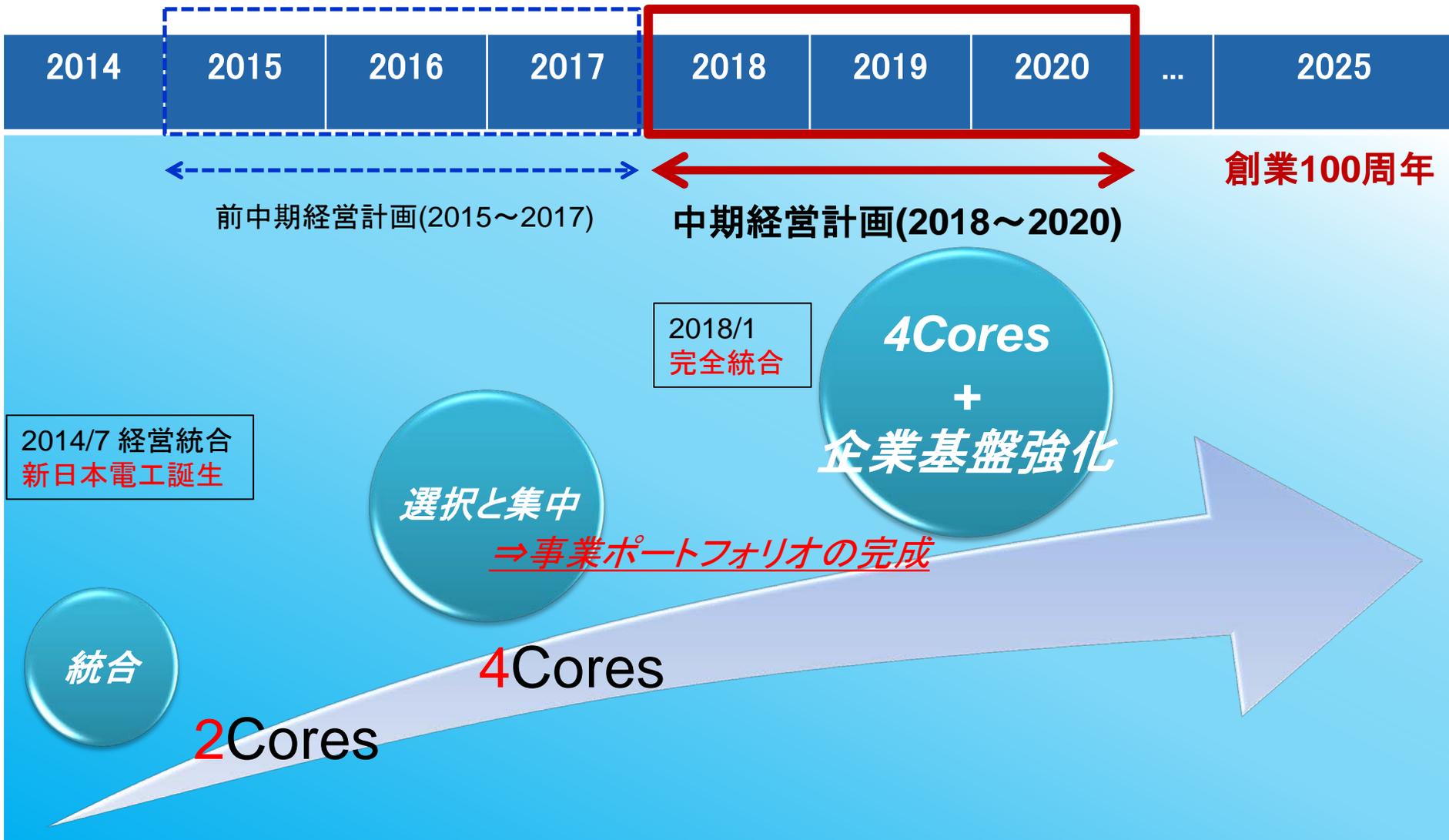


4. 中期経営計画(2018～2020年)

中期経営計画 2018～2020

4-1. 中期経営計画(2018~2020年)

創業100周年(2025年)に向けた一里塚



4-1. 中期経営計画(2018~2020年)

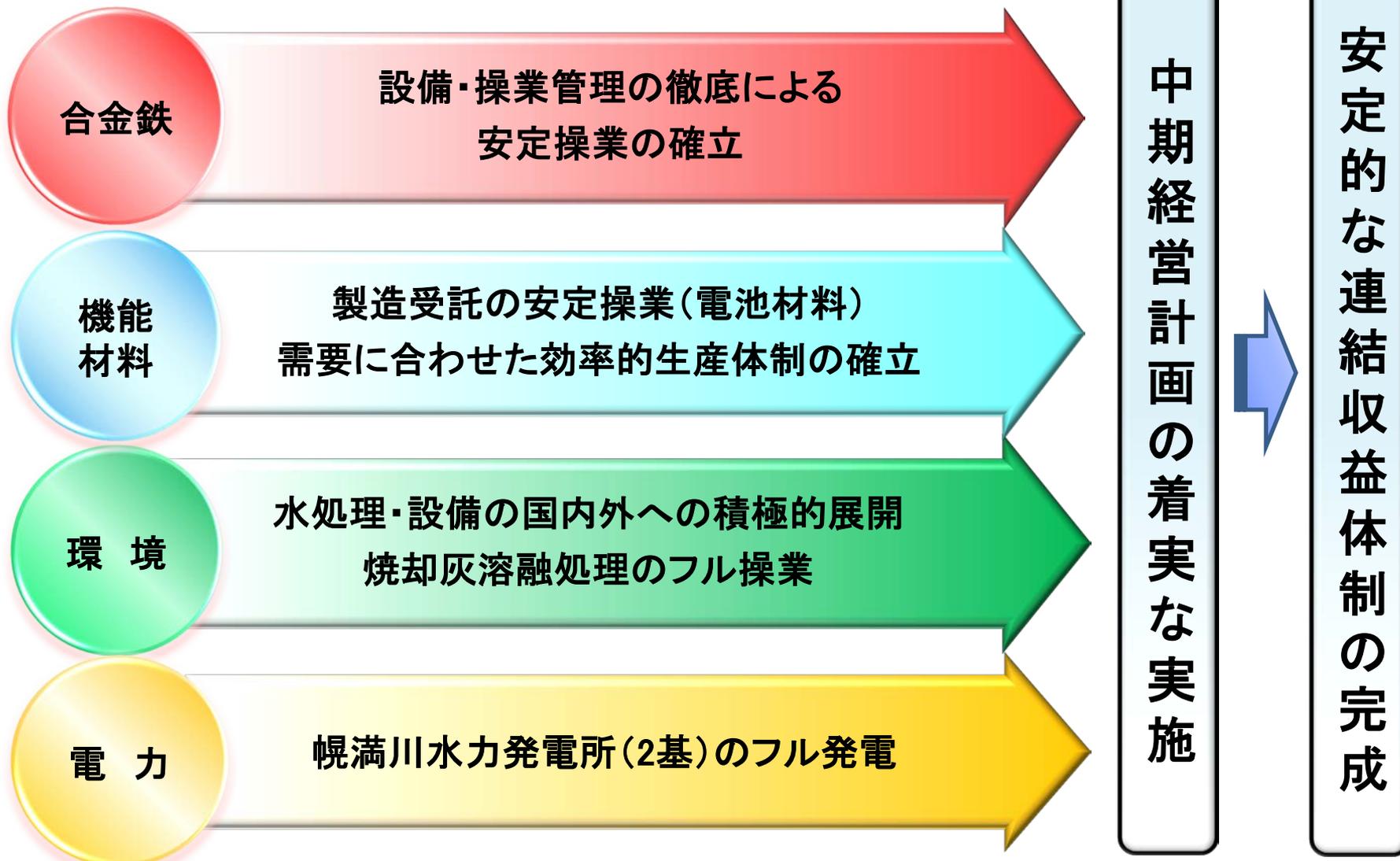
中期経営計画の基本方針

『「4Cores」+将来につながる企業存立基盤の確立』

- 
- 合金鉄・機能材料・環境・電力の4つのコア事業を更に推進
➡ 安定的な連結収益体制の完成
 - 経営資源を完全に一体化・連携
➡ 相乗効果を早期にフル発揮
 - 企業基盤の構築
➡ 社会から信用信頼されるグループへ

4-2. 中期経営計画の進捗状況

『4Cores』 2020年へ向けて



4-2. 中期経営計画の進捗状況

『将来につながる企業存立基盤の確立』②

DENKO WAY体制を整え、本格的活動を開始



重点活動

- ・ 新5S活動 (仕訳 ⇒ 整頓 ⇒ 清掃 ⇒ 作業標準化 ⇒ 守節維持)
- ・ 見える化活動 (活動版の掲示による実施前・後の見える化)
- ・ 在庫管理 (在庫把握、資産の選別と掘り上げ)

➡ 継続

- ・ DC&M活動開始
(*)
- ・ KPIの導入

- ・ KPI目標管理活動

➡ 「継続的な改善」を進め「自律的で強い現場」を造る

(*) Denko Circle & Management の略 : JKサークル活動(デンコーサークル)を継承しながらも、上司(マネジメント)の関与を強め成果の上がる活動を目指す。

4-2. 中期経営計画の進捗状況

『将来につながる企業存立基盤の確立』③

<主要施策>	<2018年 実績>	<2019年 計画>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> キャリアリターン制度の制定 男性育休の取得推進 	<ul style="list-style-type: none"> テレワーク在宅勤務制導入（2/1～） インターバル勤務制度導入予定 有給休暇取得向上への施策 男性育休取得向上
女性活躍推進	<ul style="list-style-type: none"> 「くるみん」「えるぼし」取得に向け、育児休業規程等の改正 	<ul style="list-style-type: none"> 『くるみん』申請、取得への取組み 一般職から総合職への転換制度策定
連結企業価値向上	<ul style="list-style-type: none"> 会社案内ビデオ／ホームページ掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 役員株式報酬制度の実施予定 「環境経営」方針を基軸とした取組み強化 ホームページ上の「バーチャル工場見学会」検討
選択と集中	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社の再編を実施 日電産業：解散 → 他社に業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社の再編を実施 中電産業：他社に株式譲渡 日高エナジー：解散
その他	<ul style="list-style-type: none"> 障害者雇用への取組み強化 内部統制（外部コンサル導入）の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者雇用への環境整備・職務選定 新基幹業務システムの検討 研修受講履歴の見える化

4-3. 中期経営計画2020年達成に向けて

2019年：増収・増益達成へ

(1) 完全統合による相乗効果の更なる発揮

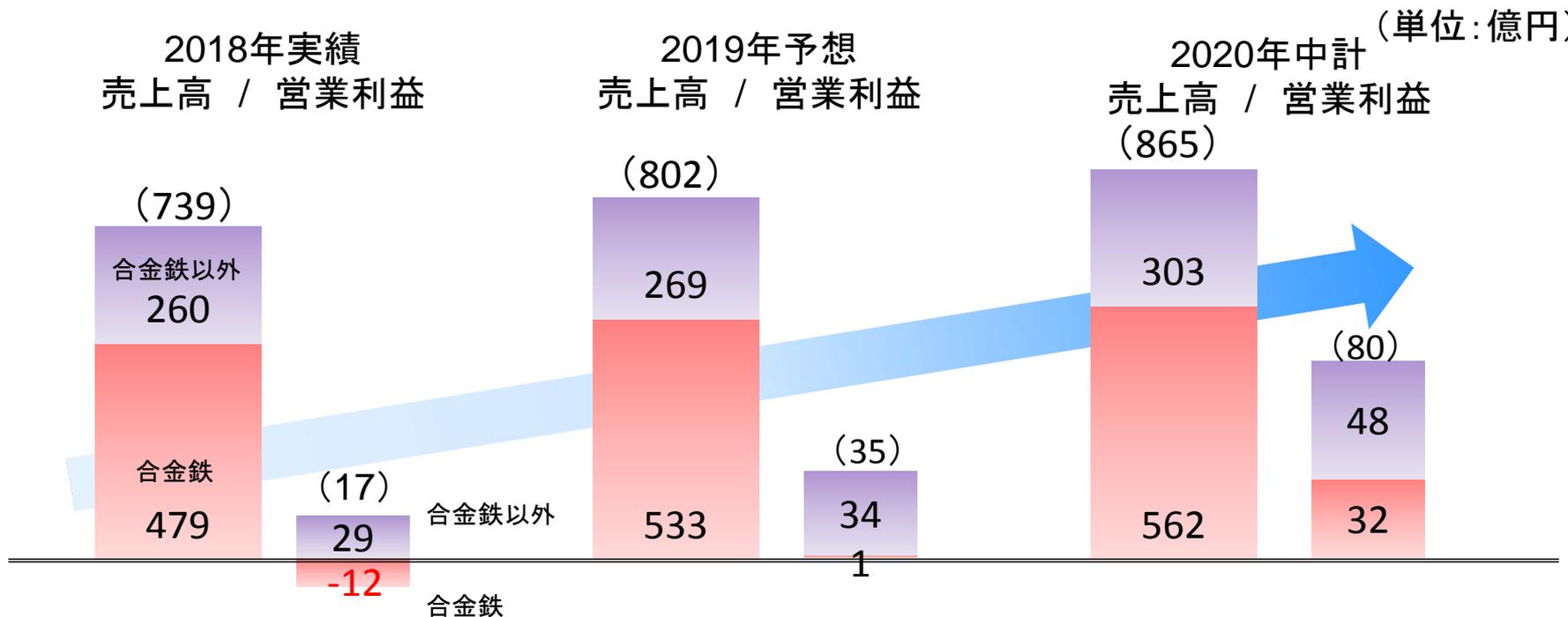
- ・ 技術、経験・ノウハウの複合・共有活用による横展開
- ・ 経営資源を一体化・連携させ4コア事業へ最適配分・フル活用

(2) 事業ごとの取り組み

- ・ 合金鉄 : 自助努力の最大発揮(安定操業、減産回避、コスト改善)
製品市況・原料価格・為替のリスクのミニマム化
- ・ 合金鉄以外 : 外部環境に左右されない安定的な収益体制の実現

＜2020年最終目標＞

連結売上高 865億円
 連結営業利益 80億円
 経常利益 85億円、ROE 8%以上



DENKO WAY 全体観

顧客満足

継続的改善 (PDCA)

ムダの排除

チーム
ワーク

現場現物

ボトルネック
改善

仕事の標準化

価値創造の追求

個人を尊重

自律型業務

支援的
リーダーシップ

参考

連結経営指標等

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
売上高	百万円	61,828	71,987	71,212	61,425	54,408	75,864	82,902	58,486	71,346	73,944
営業利益	百万円	775	10,238	8,796	3,723	3,593	2,720	2,046	1,717	9,639	1,701
事業利益	百万円	837	10,310	8,881	3,794	3,678	2,840	2,190	1,855	9,839	1,839
経常利益	百万円	922	10,538	8,860	3,516	3,978	2,286	211	1,614	9,239	1,947
当期純利益	百万円	171	5,989	4,604	△ 516	2,273	10,807	△ 14,181	△ 116	7,988	2,352
総資産(期末)	百万円	66,236	73,405	72,152	71,731	71,752	116,511	92,827	84,563	98,447	99,917
株主資本(期末)	百万円	45,075	50,721	54,218	52,819	54,538	76,737	62,281	61,815	68,372	69,111
有利子負債残高(期末)	百万円	7,080	5,160	5,150	2,770	1,600	13,468	10,630	7,891	4,927	10,432
株主資本比率(期末)	%	68.05	69.10	75.14	73.63	76.01	65.86	67.09	73.10	69.45	69.17
発行済株式総数	千株	110,433	110,433	110,433	110,433	110,433	146,741	146,741	146,741	146,741	146,741
自己所有株式数	千株	240	261	274	279	293	304	306	306	308	309
1株当たり期末株主資本	円	408.17	459.29	490.96	478.29	493.86	522.94	424.43	421.26	465.94	465.94
1株当たり当期純利益	円	1.56	54.36	41.80	△ 4.69	20.64	85.17	△ 93.84	△ 0.80	54.55	16.06
1株当たり配当額	円	3.00	10.00	8.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	13.00	5.00
ROE(株主資本当期純利益率)	%	0.38	12.51	8.78	△ 0.97	4.24	14.08	△ 22.77	△ 0.19	11.68	3.40
ROA(総資産事業利益率)	%	1.26	14.05	12.31	5.29	5.13	2.44	2.36	2.19	9.99	1.84
ROS(売上高事業利益率)	%	1.35	14.32	12.47	6.28	6.76	3.74	2.64	3.17	13.79	2.49
売上高経常利益率	%	1.49	14.64	12.44	5.82	7.31	3.01	0.25	2.76	12.95	2.63

株価

期中最高株価	円	776	728	691	416	410	338	329	266	545	528
期中最低株価	円	192	500	306	172	241	241	207	145	242	193